

国土交通省 清水港湾事務所 広報紙

みなとしみず

SINCE 1990.6

～清水港をはじめ静岡県内の「みなと」の旬な情報をお届けします！～

発行



国土交通省 中部地方整備局
清水港湾事務所



静岡県清水区日の出町7番2号

事務所HP

<https://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

TEL 054-352-4146（代表）

令和6年6月8日（土）、斉藤鉄夫国土交通大臣が、鈴木康友静岡県知事と共に、清水港を視察されました。

まず、新興津コンテナターミナルにて、管理棟4階にて清水港の概要説明を受けられたのち、稼働するコンテナターミナルの全景を視察されました。清水コンテナターミナル株式会社より、クレーンが遠隔操作で稼働すること、物流センターとゲートが近接するため搬出入が効率的であること、照明設備が津波避難にも対応していることなど、ターミナルの特徴について説明がありました。その後、遠隔操作クレーンのコントロール室を視察され、鈴木と株式会社より、モニターを見ながら操作レバーでコンテナを揚げ降ろしする方法について説明がありました。

次に、江尻地区にて、静岡県が整備を進める駿河湾フェリー用の岸壁の整備状況を視察されました。静岡県より岸壁整備の進捗状況やフェリー移転に伴う開発計画について、静岡市からJR清水駅を中心としたみなとまちづくりの計画について説明を受けられました。

斉藤大臣や鈴木知事に、地域における清水港の重要性をご理解いただけたと思います。



清水港の概要説明を受ける斉藤大臣（左端）、鈴木知事（左から2番目）



江尻地区にて海上保安庁の船に手を振る斉藤大臣

県内各港にクルーズ船が寄港しました

御前崎港

4月6日（土）にダイヤモンドプリンセス号（定員：約2700人）が初寄港しました。当日は、初寄港の歓迎セレモニーや和太鼓の演奏でお出迎え・お見送りが催されました。

4月11日（木）には昨年度に引き続きウエステルダム（定員：約2000人）が寄港しました。当日は、空手演武などが披露された他、一般の方が和太鼓を体験演奏できる時間も設けられ乗組員の方が演奏する場面も見受けられました。



ダイヤモンドプリンセス号寄港



和太鼓を演奏する乗組員

清水港

清水港では、4月から6月に計31隻のクルーズ船が寄港しました。昨年は同時期に20隻程度が寄港しており、寄港数が大幅に増えています。今年は過去最高回数を超えるクルーズ船寄港数が予定されています。

先日は、ノルウェージャンスピリット（定員：約2000人）やハンセアティックスピリット（定員：約230人）が清水港に初寄港し、歓迎セレモニーが行われました。当日は、シズラや清水芸妓が駆け付けおもてなしをされていたほか、静岡名産のお茶なども販売され多くの観光客で賑わいました。



清水港湾
事務所

クルーズ船の寄港



歓迎セレモニーの様子



お茶の出店の様子

みなとの見学会を開催しました

国立清水海上技術短期大学校・山梨市立加納岩小学校5年生

6月5日（水）、国立清水海上技術短期大学校の新入生110名を対象に清水コンテナターミナルの見学会を開催しました。学生さんは、清水港の概要説明を受けた後、バスに乗りコンテナヤード内を見学しました。間近で船からコンテナが積み下ろされる様子を眺め、熱心に質問をしていました。



コンテナヤード内見学の様子



概要説明の様子

6月13日（木）には、山梨市立加納岩小学校の5年生54名を対象に、清水コンテナターミナルの見学会を開催しました。生徒さんは、清水港の概要説明を受けた後、管理棟4階よりターミナルを展望しました。コンテナやガントリークレーンの迫力にとっても驚いた様子で、興味津々に質問をしていました。

港湾についての理解をさらに深めてもらう機会になりました。

御前崎市 下村勝市長が御前崎港を視察されました

7月9日（火）、下村勝御前崎市長が御前崎港を視察されました。静岡県御前崎港管理事務所の屋上より御前崎港の全景を視察後、御前崎港事務所の業務艇より、港内を視察されました。

視察の中で下村市長は、「子供の頃から御前崎港の防波堤で釣りをしていたため海に親しんできたが、海上から港を見ることは初めてだったため大変勉強になった」と述べられたほか、港湾の発展や津波対策等について熱意を示されました。



御前崎港の取扱貨物について説明を受ける下村市長

3港の港湾建設工事安全協議会総会が開催されました

4月19日（金）清水港、5月31日（金）御前崎港、6月12日（水）下田港の各港において、工事安全協議会総会が開催されました。

各会では、地元建設業者の皆様が多数参加され、工事安全に対する意識の高さを実感しました。

田中所長より、中部地方整備局における工事安全の取組や所長自身による安全パトロールの実施について申し上げ、引き続き安全への協力をお願いしました。総会後には、事務所から「工事安全のポイント」「令和6年度の事業」について講話を行いました。

工事安全は各工事に従事される、全ての方々の協力があって初めて実現できるものです。今年度も、危険を意識して作業していただき、皆で事故ゼロを達成しましょう。



協議会の様子（下田港）

浜名湖ミナトリング2024に参加しました

7月20日（土）、浜名港向島物揚場において「浜名湖ミナトリング2024」が開催されました。

当事務所ブースでは、波を起こせる防波堤模型やパネルを展示し、親子連れなど合計80人近くに訪問いただきました。子供たちは実際に模型で波を起こし、防波堤で波がせき止められる様子を見て「すごい！」と楽しみながら防波堤の役割を学んでいました。

港や事務所の取り組みについて興味を持ってもらい、市民の方々と交流を深める機会になったと思います。



清水港湾事務所出展ブース



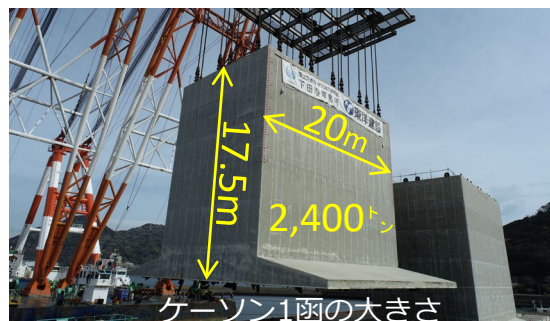
防波堤の役割について説明を受ける子供たち

現場レポート ～下田港防波堤にケーソン2函を据え付け～

令和6年4月、下田港防波堤に国内最大のクレーン船を使ってケーソン2函を据え付けました。街中からも確認できるその巨大なクレーン船の姿は、地域のちょっとした話題になりました。

ケーソンを正確な位置に据える際には細かな操作が必要なため、気象・海象が極めて良い日を狙って慎重に作業しました。据え付け後には、ケーソンの中に砂を投入し重量を増した後、コンクリートで蓋をしました。さらに、今年度中に高さを1.7m嵩上げする計画です。

今回、防波堤の長さが40m延長され、計画900mのうち605m分のケーソンが据えられました。これから地域の安全安心のため着実に事業を進めてまいります。



ペリー来航と開国を祝う黒船祭が開催されました

5月17日(金)～19日(日)に下田市最大のイベントである第85回黒船祭が開催されました。市内各所において記念式典やパレード、日米親善綱引き大会などにぎやかな催しが繰り広げられました。

記念式典には地元および両国関係者の他、特別ゲストとして米国からペリー提督とハリス総領事のご子息らが出席されました。中部地方整備局からは西尾副局長と田中清水港湾事務所長らをご招待を受け出席しました。

また、今年の下田港開港170周年にあたり、下田港を舞台とした海上花火大会では10年ぶりに2尺玉が打ち上げられ、港に集まった観客からは大きな歓声が上がりました。



式典で献花する西尾副局長



パレードで演奏する米海兵隊

港の見学会を開催しています！

清水港湾事務所では、港の概要や役割について多くの人に理解してもらうため、教育機関向けの見学会としてコンテナターミナル見学や海上見学を行っています。教育機関以外の方々も対象として、港湾の工事現場を見学できる「旬な現場」の見学も開催しているので、興味のある方はぜひHPをご覧ください。

詳しくはこちらをチェック！



教育機関向け
清水港湾事務所HP

<https://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/502/8704/>



旬な現場
中部地整HP

https://www.cbr.mlit.go.jp/local_info/sougou/contents/shisetsu/construction/genba.htm

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）
携帯電話からもご利用いただけます

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは
何でもお問い合わせください

■お問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課
TEL 054-352-4148

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

清水港湾事務所では、学校、企業、自治会の皆様を対象にみなと見学会を行っています。
詳しくは、ホームページをご覧ください

シリーズ「続・富士川水運」：駿府城への水運（後編）

関ヶ原合戦後の徳川家康は、江戸の発展と共に、駿府城及び駿府の発展、整備を進めていきます。必要となる物資、資材は、舟で清水湊に搬入されます。東海道などの街道整備が不十分だったこの時期、小型の舟に荷を積み替え、巴川を遡上して運搬する方法が最良であり、実際、薩摩土手構築の際や、駿府城改築の際など、多くの人手が動員される場合には、利用されました。ただ、流れが緩やかで水量が多く、満潮時には逆流する川底には土砂が溜まりやすく、開削工事は思うように進まず、中止せざるを得なくなります。そこで家康は、東海道、巴川沿いの北街道、海側の久能街道の3つの街道を整備させ、清水湊と駿府間の陸路輸送能力を向上させます。さらに京より「牛車」を人足と共に呼び寄せ、舟に代わる運搬能力の向上を試みます。

平安時代、貴族や公家の乗り物として利用された「牛車」(ぎっしゃ)ですが、人ではなく物を運ぶ手段としての「牛車」(ぎゅうしゃ)は、木組みの荷台を木枠の車輪で挟んだりヤカーのような構造で、江戸では200貫(約750kg)、駿府では米俵(4斗)では9俵が積めたようです。以前富士川水運で、岩渚～蒲原海岸間を運んだ駄馬が3俵でしたので、牛1頭で3倍運べた計算になります。



東海道五十三次「大津」(ウィキペディアより)

当時珍しかった牛車ですが、安藤広重の東海道五十三次の大津には、米俵を積んだ牛車の列が家々の前に居る姿が描かれています。五十二番目の宿場大津は、北陸方面から敦賀を經由し、琵琶湖を渡って来た荷を京へ陸揚げする重要な地でした。この先は、古くから駄馬や人が背負って運んでおり、逢坂(おうさか)、日岡(ひのおか)という急な2つの峠は、物流の難所となっていました。時代と共に交通量が増え、街道が整備されるようになると、道幅が広がり、牛車を使っの運搬が可能になります。江戸時代の初頭は土の道であ

り雨が降ると滑りやすく、上り坂では重い荷台を曳く牛にかかる負担も大きいのは当然ですが、急な下りも、ブレーキの無い荷台を止められず暴走してしまう事故も、少なくなかったようです。大津市歴史博物館の発行した「車石(くるまいし)」によると、元禄8(1695)年に描かれた絵図には、この峠部分に人々が往来する街道部分と別に牛車が往来する為の道が記されており、牛車の幅を考慮して9尺の幅の車道が整備されていました。

この牛車専用の車道は、主に大津近辺から運ばれた花崗岩と石英ひん石を使って舗装され、午前と午後で方向が変わる一方通行とすることにより、難所の通行を円滑に行っていました。舗装に使われた石は「車石」と呼ばれ、明治時代まで擦り減った石を交換しながら利用されました。舗装に使われていた車石は、現在大津市内の各所で見る事が出来ます。逢坂峠には、百人一首の「これやこの行くも帰る



蟬丸神社近くの車石(大津市)

も別れては 知るも知らぬも 逢坂の関」と詠んだ蟬丸を祭る蟬丸神社があり、すぐ近くに「車石」での舗装路が再現展示されています。重い牛車の行き来によって車輪で擦り減った車石を見る事が出来ます。

江戸時代を通じて、駿府以外では、江戸、仙台のみに許可された「牛車」によって、清水湊に陸揚げされた甲州廻米も、この牛車で駿府城米蔵まで運ばれたようです。

この駿府での牛車に関しては、オランダ商館医シーボルトが、文政 9（1826）年長崎より江戸に参府した際に欠かれた「日本 第 3 巻」に書かれています。「江戸から長崎へ戻る途中の 5 月 23 日、駿府へ向かっていると、牛が引く荷車の長い列に出会った。その荷車は実に不格好に出来ていて、ヨーロッパのように鉄の車輪ではなく、木製の車輪の輪縁を竹で編んだもので擦り減らないように覆っていた。」というような記述があり、当時の駿府で使われていた牛車に関して、興味深く書かれています。

天保の飢饉の際には、幕府から「御用米」が駿府に運ばれていますが、この時は、飢饉により牛の餓死が増えたため、牛車の確保が難しくなり、巴川を小舟で

遡上し、上土付近で陸揚げし牛車にて駿府に運ぶという手段も使われました。「江戸時代の駿府新考」（若尾俊平著）には、天保 12（1841）年と 13 年の、清水より駿府への「牛車積送り高井に駄数調書」に基づいて代表的な 4 項目を表

牛車積送り高井に駄数調書				
	天保12年		天保13年	
	牛車積送	上土廻し	牛車積送	上土廻し
荷数総計（品）	89567	6591	89831	7992
（内）御 米 （俵）	4432	1866	3733	1215
米 穀 （俵）	24810	1383	23431	2392
樽物類 （樽）	3490	76	4014	302
小樽物類（樽）	6269	—	5689	—

江戸時代の駿府新考（若尾俊平著）より引用

に纏めたものが載っています。御米に関しては、3 割ほどが上土廻し（巴川経由）になっていますが、他の米穀、樽物類、小樽物類は、ほぼ陸路での牛車輸送になっています。

家康が駿府に持ち込んだ牛車輸送が、200 年ほど後の時代でも、清水湊から駿府城下への重要な役割を担っていたのです。

駿府城下における牛車にまつわるエピソードを御紹介します。

慶長年間（家康駿府入城 1607～）、家康が鷹狩りの帰りに横内田町の民家で休息した際に、老婆と会話をしたそうです。その老婆に望みを聞いたところ「別に望みは無いが、家の前を朝夕牛車が通って喧しいので止めてくれると有り難い。」と家康に伝えました。老婆の願いを聞いた家康は、早速この場所の牛車の通行を規制してしまったので、牛車は遠回りをする事となりました。現在、葵区太田町の北街道交差点付近は、駿府城まで直線で 500m 程の場所が通れないとなると、牛にとってかなり負担になったと思われます。この規制は、江戸時代後期の天保年間に書かれた「駿河国新風土記」（1834 年）にも載るほど、200 年以上に渡り北街道を通る牛車で運搬の障害になっていました。



牛車の交通規制があった太田町交差点付近